

Inter-Faculty project

「『地域生活学』の研究拠点形成」報告

平成23年度学長裁量経費プロジェクト

富山大学芸術文化学部教授 武山 良三



目的と活動概要

富山大学の学部横断型プロジェクトとして平成21年度に始まった「地域生活学研究会」は、3年目を迎えて体制を再編しました。人文学部、経済学部、人間発達科学部、芸術文化学部に加えて理工学研究部及び地域連携推進機構地域医療・保健支援部門の教員を加え11人の教員が参加しました。これからの持続可能な社会を支える「地域生活学」の創出を図ることを目的とし、平成23年度は、「富山県の都市地域と中山間地における持続的な生活環境の構築」を目指して活動を行いました。日常のさまざまな課題を引き起こしている要因に迫り、これからの地域社会に求められる基本的な理念を構築すると共に、生活実態に即した解決策を提示・推進していく拠点づくりを構想します。具体的には勉強会とフォーラムを開催した他、研究専門誌「地域生活学研究」を発刊しました。

公共交通と地域生活を考えるフォーラム「LRTを富大へ」

筆者は「地域生活における公共交通の役割」というテーマを分担し、次のフォーラムを開催しました。

富山県では、平成26年度中に北陸新幹線の開業が予定されています。首都圏との利便性の向上が期待されますが、並行在来線が分離経営されることが決まっているなど、地域の公共交通に与える影響が心配されています。県内の拠点都市である富山市、高岡市は共に中心市街地の衰退が課題となっていますが、この問題と公共交通のサービス低下には相関関係があることが確認されています。このことから公共交通の課題解決は、持続可能な地域社会の構築に不可欠と考え、関連のフォーラムを企画・実行しました。

平成23年9月に開催された富山大学コラボフェスタのパネルディスカッションの席上、森雅志富山市長と遠藤俊郎富山大学長との間で、路面電車・富山市内線の五福キャンパスまでの延伸が話題となり、実現の可能性を探る要望が出されたことから、フォーラムではこの課題を具体的事例として、新幹線開業後の県内公共交通のあり方について議論しました。

フォーラムでは、路面電車や次世代型路面電車であるLRTの普及活動について第一人者であり「路面電車と都市の未来を考える会(通称RACDA)」の創設者である岡将男氏(NPO法人公共の交通ラクダ(RACDA)理事長)に「クリーンモバイル都市・富山をつくるLRT」と題して講演いただきました。続いて、国土交通省で公共交通と都市整備に取り組んで来られた経験をお持ちの神田昌幸富山市副市長から「LRTが牽引する『環境未来都市富山』について」と題してお話いただきました。

休憩を挟み、両講師に「まちなか研究室」でサポーターを務める学生・萱岡雅光さん(人文学部4年)と岩瀬まなみさん(人文学部3年)の2名を加えてパネルディスカッションを行いました。

種々意見が出されましたが、まとめると次のような観点が求められることが確認されました。

- ・今回の延伸には五福キャンパスにおけるアクセス性の向上がきっかけとなっている。具体的には、道路を歩道橋で横断せねばならない不便、正門まで200mほど歩かなければならない不便、特に工学部へはさらに300mほど歩かなければならない不便が解消できることが期待される。
- ・しかし、キャンパスへのアクセス問題を考えると杉谷キャンパスと高岡キャンパスの方が問題は深刻である。杉谷キャンパスでは学生だけでなく、附属病院の利用者にとっても不便な状況があり、車でアクセスせざるを得ないことから恒常的な駐車場不足に悩んでいる。高岡キャンパスは路線バスの本数が少なく、最終便も早いことから課題制作等で学校に残る学生に不便である。また、積雪時は万葉線の米島駅から徒歩で通学する学生もいるが、歩道は除雪されていないことがあり非常に危険である。加えて、夜間は沿道に明かりも少なく、女子学生にとっては不安な状況になっている。
- ・路面電車の延伸にはセントラム開業時の費用から考えると少なくとも約20億円の整備費が必要である。この金額による利便性の改善と他のキャンパスのアクセス性の改善を考えると、優先度は五福が一番低いと言わざるを得ない。また、延伸による市民のメリットを示さなければならない。



以上のことから五福キャンパスの延伸を推進するためには、単に利便性の向上を図る目的だけでは関係者の理解や予算の獲得は難しいと考えられます。延伸が大学の根本的な機能強化にとって必要不可欠であるという根拠が必要です。路面電車の五福延伸が杉谷や高岡の課題解決に繋がる、という位置づけがなければ全学的な合意も得られないでしょう。

平成17年10月の3大学統合から6年余りが経過した富山大学。平成23年から就任した遠藤俊郎学長は「ひとつの大学」を目標に掲げ、教育・研究・社会貢献のさまざまな観点から真の統合を目指しています。その目標に向け学生や教職員が各キャンパスを自由に行き来できる環境が整えられることは重要な課題です。また、地域の足の確保は、北陸新幹線開業後に並行在来線が分離経営されることになっている地域社会にとっても深刻な問題です。路面電車の延伸を切り口としながら、大学改革と地域生活の改善に資する取り組みになるよう、今後も継続的に調査・研究していく計画です。

●公共交通と地域生活を考えるフォーラム

「LRTを富大へ!!」

主催：富山大学地域生活学研究会

後援：富山市

日時：2月17日（金）13：30～17：00

会場：富山大学五福キャンパス黒田講堂1階会議室

【講演会】

「クリーンモバイル都市・富山をつくるLRT」

岡将男／NPO法人公共の交通ラクダ(RACDA)理事長

「LRTが牽引する『環境未来都市富山』について」

神田昌幸／富山市副市長

【討論会】

パネラー：岡将男、神田昌幸

菅岡雅光（人文学部文化人類学専攻・まちなか研究室参加学生）

岩瀬まなみ（人文学部人文地理学専攻・まちなか研究室参加学生）

進行役：武山良三／富山大学学長特別補佐

写真上：LRTが五福キャンパス内に乗り入れた場合のCGパース。カフェやブース型店舗、ベンチやサインを配することで、学生だけでなく市民も憩えるキャンパスを構想している。これを実現させるためには、市民が日常的に大学へ立ち寄る目的が必要であり、それがあってはじめてLRTの乗り入れに公的な価値が生まれる。



講師
岡将男
Masao Oka



講師
神田昌幸
Masayuki Kanda



慢性的な駐車場不足に悩む杉谷キャンパス。素晴らしい並木道が車で占領されている。できれば学生や患者さんが散策できる環境をつくりたい。



万葉線の米島口から高岡キャンパスへ向かう大学通り。積雪時は歩道が埋まり、水を浴びながら危険な車道を歩かなければならない日がある。